

# 大西市長に聞きました

取り組むのは

12のキーワード

対話しながら進めたい。

コミュニティ

地域単位と

いうイメージで

すが、それ以外

にも例えば、N

POやボラン

ティア、婦人会、

子ども会...

そういう、新し

い形のコミュニ

ティどうしがつ

ながり、さらに

行政と協働で

いろいろなこと

に取り組む、と

いうのが理想

です。

特にコミュニティの再生に力を入れたい

もとに、2期目ー特に力を入れているのは

さんと一緒に、

花や実をつけ

る時期だと思っ

ています。そこ

で、スタートに

あたって、ぜひ

取り組みた

い！と思うこ

とを、「子ど

も・子育て」

「教育」「観光

「公共交通・自

転車」というふ

うに、12のキー

ワードにしまし

た。

なる事業が重

なりました。時

代の変化に合っ

たまちづくり

や、今後の市の

方向性を考え

るいい機会とな



1期目でつ

くった土台を

## 読者の質問に答えてくれました

水不足、毎年同じことの繰り返しです。根本的な解決策は(48歳)

「早明浦ダムの貯水率低下」と報道されるとすぐ「渇水」のイメージになりますが…。高松市では、万一、香川用水取水制限を受けた時も困らないような水源対策を、進めています。

例えば、香川用水の水を貯水する「宝山湖」が、2年前に完成。香川用水をより有効に利用できるようになりました。

また、緊急時の予備水源確保対策として、平成26年完成をめどに、地下水を取水するための施設を整備予定。さらに、塩江に椋川ダムを平成29年ごろ建設する計画も。これらの取組によって、香川用水6割、自己水源4割から、自己水源5割くらいにできれば、と考えています。

とはいえ、早明浦ダム周辺への降雨が少なくなっていたり、異常気象が頻発したりと、予想できないこともあります。

やはり、市民一人ひとりの節水も大切だと思いますので、引き続きご協力をお願いします。

地震が発生したら津波は？市の備えは？想定外のことでは終わらせないで(37歳)

長期的には、2年前に見直した「高松市地域防災計画」を、もう一度見直したい。津波については、東南海・南海地震でM8.6の地震、2.4mの津波を想定して策定したもの。津波が市のどの地域に到達するのかを予測したハザードマップも作っていますが、こちらも根拠となる被害想定に変更があれば、見直したいと考えています。情報伝達については、防災無線システムを整備したり、防災ラジオ(=災害時に自動的に電源が入り情報伝達できる)を活用できないか。ほかにも、いま市が備蓄している物資の品目、数は本当に十分なのかの洗い出し、役所自体の機能が麻痺(まひ)した場合、職員はどう対応するのかという行動計画も必要だと考えています。

さらに、75歳以上の独居世帯や障害者という要支援者は「地域のこの人とこの人が助ける」というところまで決めて、実際に行動できるような体制を「地域コミュニティ協議会」を中心に整えたいと思います。

働きながら子育てする親への支援を。病児保育は、学区に1カ所ずつほしいです。(36歳)

今年の4月時点で、高松市の保育所の待機児童はゼロとなっています。ただ、通いたいところから遠い地域になるなど、希望通りにいかないケースもあると思います。そこで現在、公立37カ所、私立36カ所ある保育所の定員を、今年度に1カ所創設して80人増員しました。さらに、来年度中には3カ所の創設と1カ所の増築で365人増員する計画があり、今まで以上に体制を充実させていきます。

子どもが病気になった時のバックアップについてはー。現在、「病氣中、病後、体調不良時」と、状態ごとに対応する施設があり、合わせて7カ所設置されています。学区に1つずつという要望ですが、医師などの専門家の配置や、病気がうつらないよう個室の整備などの問題をクリアしなければならず、すぐには難しい面もあります。ただ、平成26年度末までには、1カ所増設する予定です。